



浪江町長

馬場 有

# 新年のご挨拶

浪江町議会議長

吉田 数博



平成29年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆さまの震災発災からの不自由で苦痛な生活を思い、心が痛みます。あらためて、衷心よりお見舞い申し上げますとともに、このような困難な状況の中で昨年中は行政各般に亘りご理解・ご協力を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は震災時の緊急復旧期（震災から3か月）から復旧実現期へ移行して3か年の最終ステージでありました。帰還困難区域を除き損壊した上下水道、主要道路等のインフラ復旧事業および農地・宅地の除染が80%程度完了し、生活基盤の整備にあたっては仮設商業施設のオープン、医療機関の診療所建設・公設民営の介護施設整備の見通しが立ち、請戸漁港は、漁船が帰港できる状態まで改修整備され、農地復旧の管理できる農事復興組合も行政区毎に設立され始めております。また、地元での再開事業者が増え、今後は農地を管理する農業従事者ともども地域再生

平成29年の新春をお健やかに迎えられた事と存じます。故郷なみえを離れ6回目の新春、心さびしさを感じられる心境かと拝察いたします。昨年は復興計画、復興まちづくり計画に基づき、故郷なみえの再生、復興と住民の生活再建を進めてまいりました。ようやく形として復興の姿が見え始めたと感じております。9月に復興庁、福島県、浪江町の三者共同による住民意向調査が実施され、11月下旬には結果速報が発表されました。町への帰還意向については「すぐに・いずれ戻りたい」17.5%、「まだ判断がつかない」28.2%、「戻らないと決めている」52.6%となりました。また、帰還する場合の条件の主なものは、医療・介護の整備、商業やサービスの施設になる事、鉄道・バス等公共交通の整備、放射線量の低減対策などが示されております。

のフロントランナーになっていただくたく期待するものがあります。更に、帰還困難区域の今後のあり方や将来像を具体化するよう国に強く要請しており、除染計画や復興拠点づくりについて意見交換・協議に努めたところであります。

一方、県内外に広域分散避難を続けている町民の皆さまの生活再建・支援を原発避難者特例法に基づき、避難先での行政サービスが、避難元で受けられるよう施策を展開させたほか、自立再建できるまで高速道路の無料化、医療・介護費用の無料化、税の減免の維持を図ってきました。

次に、平成29年の施策について所信の一端を述べます。本年は、第一に「百年の大計」を示す絵姿を具体的に描きます。浪江町内の再生を果たすため、昨年から仕込み始めている「中心市街地再生計画」、「交流・情報発信拠点施設整備」、並びに「帰還困難区域のあり方」の具体化、「復興祈念公園」の基本構想化、国・県・町・民間企業でつくる「浪江町復興ビジョン」の策定・事業化を図ります。

政府が進めている今年春の一部避難指示解除に向け、これらの早急な対策が重要であり、町として故郷なみえの再生、復興の為、最大限の努力を重ねているところであります。昨年の議会における震災対応、ふるさと再生対応は議会だよりにてお知らせしている通りであります。特に町民との懇談会、国、県、東電等に対する要望・要求活動を行ってまいりました。直近の要望では「農林業に係る今後の損害賠償（案）の全面見直しを求める要望（要求）書」、「帰還困難区域の取扱いに関する考え方」に対する要望書」を国、県、東電に提出いたしました。また、原子力災害現地対策本部長の高木経産副大臣と様々な課題解決に資する為の意見交換会も4回目を数えました。今、大きな話題のなかで私達にとって憤りと共に悲しいことが起きております。原発事故に伴う避難をしている子

併せて、戻れる町民・戻れない町民の方々を支援するため、従来の各種支援策の拡充に努め、お互いの「絆」から成り立っていた「絆」を大切にしつつ町民同士の交流する機会を多く持つイベントの開催、あるいは確かな情報発信をこれまで以上に強化し、戦略的な広報に努めていきます。

第二に、「避難指示解除（帰還困難区域を除く）」の課題についてであります。これまで原発事故により生命の危機があるとすることから強制的に町外へ避難を強いられておりますが、一昨年の8月に政府の閣議決定により本年の3月に解除する旨の発表がありました。その際に解除の3要件が示され、町としてはこの3要件を満たす条件等を客観的に判断するため、「有識者検証委員会」・「除染検証委員会」を立ち上げ調査していただきました。

これらの調査、提案を含めて議会、町民の皆さまの意見を拝聴し、町としては今後多角的に精査して、「いつ解除すべきか」を総合的に判断したいと考えて

ども達のいじめの問題であります。不慣れた土地で学校生活を強いられている子ども達が根深い偏見により、つらい学校生活を送っており、学校の意識改革が課題とされておりますが、それだけで済む話ではないと考えております。早稲田大学の和田教授が指摘しているように「避難者に共感できず、大人が偏見を持って『放射能』『賠償金』などの言葉を使っていくことが、子ども達の振る舞いに影響している。まずは大人が襟を正すべきだ」と指摘してあります。正論だと思えます。今回を含め表に出ている事柄は氷山の一角であろうと思えます。これらの対応は、難しさはあるものの重要なことだと認識しております。本年も昨年同様、様々な課題解決の為、全力で対応を図るべく全議員一丸となつて取り組んでまいりますので昨年同様、ご指導、ご鞭撻を賜ります様、お願いを申し上げます。新年のご挨拶といたします。

ております。

第三に、戻る町民のため、帰町準備室を中心に、復旧作業を加速化させるべく、平成25年より「事業系」の所管が本庁で一部業務を開始しております。本年は、二本松事務所・各出張所を数か所残し、本庁に業務をシフトして、町民が「いつ戻られても」支障が生じないよう、事務機構の改善を図ります。

いずれにしても課題は山積しており、町の再生・復興にはかなりの時間を要すると存じますが、浪江町の生き残りをかけて全力を傾注し、不撓不屈の精神で町民の皆さまとともに「戻って良かった」「かけがいのない故郷がよみがえって良かった」と思える町を再興してまいりますのでご支援をお願いいたします。

結びになりますが、寒気の厳しい折、皆さまにはご健康に留意され、新年が幸多い良き年となりますようご祈念し、年頭に於たつての挨拶といたします。

「福徳の三年目（六年目）を念じて」



浪江町議会議員

(議席番号順)

- 渡邊 泰彦
- 佐々木 勇治
- 鈴木 幸治
- 平本 佳司
- 松田 孝司
- 山崎 博文
- 佐々木 恵寿
- 山本 幸一郎
- 泉田 重章
- 佐藤 文子
- 紺野 榮重
- 三瓶 宝次
- 馬場 績